ゆう薬局

心豊かに暮らす「処方箋」は、楽しい世間話でした

薬剤師さんとのおしゃべりは母の楽しみ――患者さんのご家族にそう言われ、胸が熱くなったと話すのは京丹後市にあるゆう薬局の管理薬剤師Lさん。薬剤師歴25年のLさんはドラッグストアから転職して4年。人と接するのが好きで、患者さんとの会話も大事にしています。

患者さんの一人、90代の泉さん（仮）は血圧とコレステロールの薬を服用中。おしゃべりが好きな泉さんは「ネイルケアのいい方法ある？」と尋ねるチャーミングな方。つい先日もこんな笑い話をしてくれました。「家の中で転んで、おでこにできた青あざをファンデーションで隠したら『今日はお化粧？』って笑われたのよ」。

ところがその半月後。泉さんのご家族から連絡があり、なんと泉さんが亡くなったと言うではありませんか。脳梗塞で倒れ、あっという間の出来事だったそう。数日後、Lさんは弔問と薬の確認に泉さんのお宅を訪問しました。そこで娘さんから思いがけない言葉をかけられます。

「母はゆう薬局でのおしゃべりが大好きだったんです。ゆう薬局に行くことが、母の元気の秘訣になっていたのです」。

家でもよく薬局でのやりとりを話題にしていた泉さん。カレンダーには次に行く日を記入して、毎日眺めていたそうです。

「Lさんがいつも親身になって話を聞いてくれ、体調を気遣ってくれることに、母は感謝していました。安心して豊かな気持ちで暮らせたのも、Lさんのおかげです」。

Lさんは目を赤くしながら振り返ります。「薬剤師としてこれほどうれしい言葉はないですね。普段のコミュニケーションを通じて、患者さんの状態を見守るのも保険薬局の大事な仕事。これからも患者さんに寄り添い、信頼でつながっていきたいです」。

地域医療を支えるゆう薬局の薬剤師が患者さんに渡すのは、処方薬だけではありません。おしゃべりも、処方箋のひとつ。「地域で安心して、心豊かに過ごしてほしい」。患者さんとの何気ない会話にも、実はそんな思いが込められているのです。

ゆう薬局 ハンケイ500m物語 vol. 11

なんでも相談できる「ゆう薬局」には、お客さまとの物語があります。

豆知識

薬剤師とのコミュニケーション

薬剤師は会話を通して、患者さん個々に合わせた判断と説明を行います。必要な情報は伝えておかないと危険なことも。積極的にご相談ください。

ゆう薬局グループ本部・宇野薬局

☎075-771-1690（本部）
京都市左京区浄土寺下馬場町106
もよりバス停は「錦林車庫前」